



北はりまエコニュース



ハリーン通信 Vol. 9

兵庫県北播磨県民局県民室環境課

目次

* 廃棄物対策 *

ごみ 2 割減量北はりま大作戦

..... P. 2

* 北はりま絆プロジェクト *

エコフェスティバルを開催しました

..... P. 4

* 環境学習・教育 *

地域環境コーディネーターだより

..... P. 5

寄稿

生物多様性に富んだ公園づくり

兵庫県立三木山森林公園

..... P. 6

自然体験を通して伝えたいメッセージ

里山体験西脇「木縫の里」 絹川 喜和美

..... P. 7

お知らせ

..... P. 8

**廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の改正について
廃棄物エコ手形制度について**



平成23年3月31日発行

兵庫県北播磨県民局県民室環境課

〒673-1431 兵庫県加東市社字西柿1075-2

TEL: 0795-42-5111 (代表) FAX: 0795-42-7535

H P: http://web.pref.hyogo.jp/area/n_harima/index.html

ハリーン通信では、みなさんからの投稿や寄稿、ご意見、ご感想をお待ちしています！ ぜひ、事務局までお寄せください！



北はりま絆プロジェクト

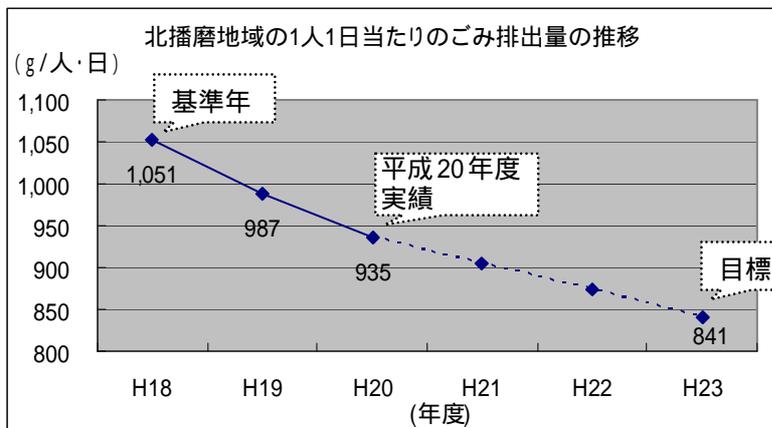
「ごみ2割減量北はりま大作戦」が目標年度へ！

平成21年度から取り組んでいる「ごみ2割減量北はりま大作戦」。

来年度は、大作戦の最終年度を迎えます。最新のデータ(平成20年度実績)からは、ごみの減量化は進んでいるものの、**目標の達成には平成20年度からさらに1人1日当たり94gの減量が必要**であることが分かります。なかでも**三木市と小野市の1人1日当たりのごみ排出量は、多可町の1.5倍を超えています**。みんなで目標の達成を目指し、一層のごみ減量に取り組みましょう！

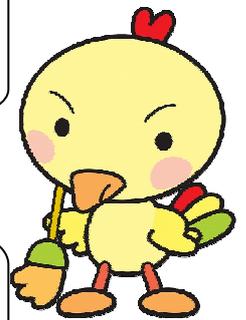
目標1

1人1日当たりのごみ排出量を平成21～23年度の間に対18年度比で2割以上削減(1,051g 841g)する。



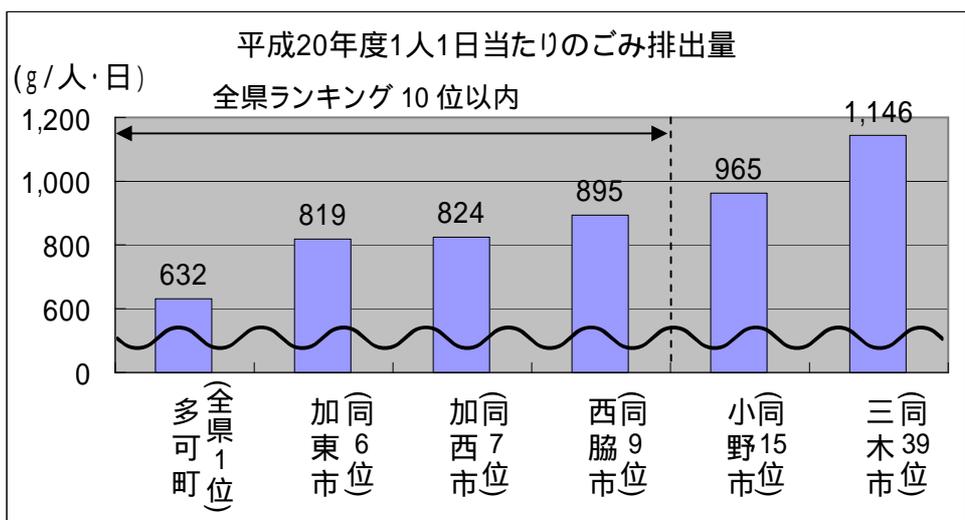
目標まであと
94gの減量が必要
です！

一般的な家庭では
ごみ捨て1回当
たり975gに相当
する量となります。

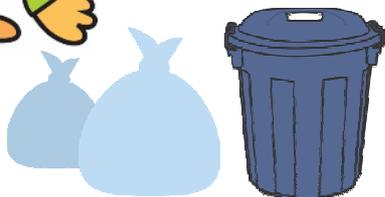
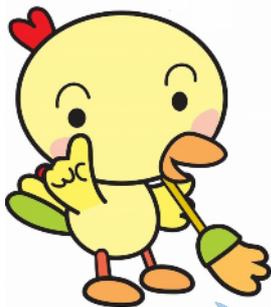


目標2

平成23年度末に、北播磨管内の5市1町が1人1日当たりのごみ排出量ランキング10位以内を達成する。



三木市(39位)と小野市(15位)でさらなる減量が必要です。



詳細は、兵庫の環境ホームページから「平成20年度兵庫の一般廃棄物処理」

(<http://www.kankyo.pref.hyogo.jp/JPN/apr/index.html>)
をご覧ください。



ごみ2割減量北はりま大作戦

ごみ減量・資源化モデル事業所が決定！

ごみ2割減量北はりま大作戦推進会議では、先進的・先導的な取組を通じて、ごみの減量やリサイクルを進める事業所を、「ごみ減量・資源化モデル事業所」として指定しています。

第1回目となる今回は、6月29日から8月31日まで募集を実施。学識者及び住民団体の代表者で構成する「ごみ減量・資源化モデル事業所指定選考委員会」において審査のうえ、次の13事業所を指定しました。

事業所名	所在地	取組概要
生活協同組合コープこうべ コープ西脇 コープ加西 コープ志染 コープ三木緑が丘	西脇市 加西市 三木市	レジ袋の無料配布中止など、地域のごみ減量に取り組んでいる。新たに卵パックなどの店頭回収も実施予定。 レジ袋の無料配布中止や食品加工残さの堆肥化の実施など、地域のごみ減量に取り組んでいる。新たに卵パックなどの店頭回収も実施予定。
マックスバリュ西日本株式会社 マックスバリュ別所店 マックスバリュ三木北店 マックスバリュ恵比須店 マックスバリュ古坂店 マックスバリュ加西南店	三木市 加西市	レジ袋の無料配布中止など、地域のごみ減量に取り組んでいる。
シスメックス国際試薬株式会社 小野工場	小野市	ISO14001を認証取得し、分別廃棄や紙の全量リサイクル等に取り組んでいる。今後、生ごみ処理機を導入し、食堂の生ごみ等を処理予定。
伊東電機株式会社	加西市	ISO14001を認証取得し、ごみの分別廃棄やリサイクルを推進するとともに、廃棄物の減量に配慮した製品づくり等にも取り組んでいる。
イオンリテール株式会社 イオン加西北条ショッピングセンター	加西市	レジ袋の無料配布中止など、地域のごみ減量に取り組んでいる。
株式会社銀ビルストアー 生鮮パワー加西店	加西市	レジ袋の無料配布中止など、地域のごみ減量に取り組んでいる。

「ごみ2割減量北はりま大作戦フォーラム」の開催

11月8日に、加東市滝野文化会館でごみ2割減量北はりま大作戦フォーラムを開催しました。

当日は、モデル事業所への指定書交付式に続き、国立大学法人兵庫教育大学福田光完副学長(ごみ2割減量北はりま大作戦推進会議会長)による「ごみの分別～国内外の取り組みから～」と題した基調講演、モデル事業所や地域でごみ減量に取り組んでいる活動団体による事例発表が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

参加者にとって、地域でのごみ減量の必要性を改めて認識し、実践につなげる良い機会となりました。



北はりま 絆プロジェクト

エコフェスティバルを開催しました！

北播磨県民局では、「家族の絆」「地域の絆」「生活（くらし）の絆」の3つの絆を深め、元気で安全・安心な北播磨づくりをめざす、「北はりま絆プロジェクト事業」を推進しています。「絆を深める月間」の11月には、21日（日）に県立播磨中央公園で「北はりま絆フェスティバル」（エコフェスティバル、健康フェスティバル、親子遊び）を開催し、エコフェスティバル会場では、「北播磨の豊かな自然環境を知る」、「循環型社会を考える」、「地域から地球温暖化防止に取り組む」をテーマに、パネル・写真の展示や、エコドライブ教室等の参加・交流型イベントを実施しました。

エコドライブ教室

CO₂排出量の削減など環境に配慮した自動車の使用について学ぶ「エコドライブ教室」では、参加者が実技講習等を体験し、エコドライブの基本操作を学びました。講習の結果、平均11.2%程度燃費が改善し、参加者はその効果に驚いていました。



パネル・写真展示、環境クイズの実施

「北播磨の自然」「ごみ減量とリサイクル」「地球温暖化防止」の3つのテーマに分けて、パネルや太陽電池の現物等の展示や、テーマに関連した環境クイズを実施。身近な自然や地球温暖化防止活動について再認識する機会となり、来場者の関心を集めていました。



使用済み携帯電話の回収

希少金属（レアメタル）の回収を促進するため、来場者に携帯電話のリサイクルを呼びかけ、都市鉱山の有効利用について啓発を行いました。



エコチェック

北播磨地域地球温暖化防止活動推進連絡会の啓発事業のひとつである「エコチェック」。参加者は暮らしの中のエコ活動に興味を示していました。

エコ工作教室

使用済み牛乳パックを使ってソーラーオルゴール作りを楽しむ「エコ工作教室」。親子で工作に取り組みながら、自然エネルギーや地球温暖化について学びました。



はばタン・ハリーンとの交流会

兵庫県のマスコットキャラクター「はばタン」と「ごみゼロ北播磨！」マスコットキャラクター「ハリーン」が、同日に開催された「はりちゅう夢ステージ」に出演。来場者と記念撮影を行うなど、家族や親子と楽しい交流ができました。





地域環境学習コーディネーターだより



北播磨県民局県民室環境課 地域環境学習コーディネーター 笹倉 綾子

兵庫県では今年度から環境学習・教育に取り組む幼稚園・保育所を対象に、「ひょうごっこグリーンガーデンサポート事業」を実施しています。北播磨地域では、11か所の幼稚園・保育所が登録し、環境学習・教育に取り組んでいます。

また、県では、専門知識や経験を生かし、子どもたちの環境学習の支援を行っている個人や団体を、「ひょうごグリーンサポーター」に登録し、「ひょうごっこグリーンガーデンサポート事業」や、小学校3年生対象の「環境体験事業」の支援者として協力していただいています。



ひょうごグリーンサポーターの取り組み事例

実施園 三木市立自由が丘東幼稚園
 参加人数 園児 22名、保護者・教諭等 29名
 日時 11月18日(木) 9:30~13:30
 場所 三木市志染町大谷 伽耶院
 内容 「親子で自然体験とクラフト作り」

晩秋の野山を駆け回り、ネイチャーゲームや木の実拾い、自然物を利用しての親子クラフトづくり等を楽しみながら、人や自然を大切にすることを育みました。



園長先生の感想

ひょうごグリーンサポーターの絹川喜和美さんが、エネルギーに楽しく、なおかつ細やかに指導をされ、自然のすばらしさや、クラフトづくりの楽しさを知ることができました。

保護者の方からも「自然のすばらしさを改めて感じ、自然を大切にすることが人を大切にすることに繋がるのですね」という感想を頂きました。



平成19年度から始まった「ひょうごっこグリーンガーデン事業」ですが、これまでに北播磨地域の約7割の幼稚園・保育所が実施しました。この事業をきっかけに、毎年作物栽培や、自然体験活動等を実施している幼稚園・保育所もあり、環境学習が定着しつつあります。

また、同年度より始まった小学校3年生対象の「環境体験事業」も、平成21年度から全校実施となりました。北播磨地域全校の90%が一連のテーマでストーリー性をもった活動を行うなど、学習内容がさらに充実しています。

しかし、身近なフィールドの開拓や、支援者との打ち合わせの時間をしっかり取ることなどの課題もあります。

今後も小学校や幼稚園・保育所が主体となり、地域や家庭と連携を図るとともに、これまでの学習内容からさらに充実した活動が行われることを期待しています。



生物多様性に富んだ公園づくり



兵庫県立三木山森林公園

兵庫県立三木山森林公園は、「人と森林（もり）との共生」をテーマに整備された森林公園です。広さは、甲子園球場の約20倍、81ha。その中に、森林（里山林）、芝生広場ほか、音楽ホール、クラフト館、バーベキュー広場などの施設が点在しています。

四季折々の表情を見せる自然の中で、森の生きものとふれあい、森の大切さを感じられる場所として活用してもらえよう、「三木山サポーターズ」（公園ボランティア）と一緒に“生物多様性に富んだ公園づくり”を進めています。

1 生物多様性を富ませる環境づくり（草原環境の創出、水辺環境の整備）



約2年前から、“生物多様性に富んだ公園”をめざし、かつてこの地域に見られた草原、水辺環境を園内につくっています。

以前は、ゴルフ場のような芝生広場やブルーギルなどの外来種が多くいる池がありました。このような環境では、生物多様性も富むわけがありません。そこで、芝生広場の一部をキキョウなどの花が咲き、バッタ類やそれをエサとする野鳥が集うようなススキ草原、チガヤ草原に改善する取り組みを始めました。また、芝生広場にある2つの池でも外来生物を取り除き、在来の水生生物（植物、魚、昆虫類）が住める環境づくりを進めています。



2 生物多様性に富んだ環境を伝える

生物多様性に富んだ環境、様々な施設、そして三木山サポーターズという財産を活かし、環境体験事業や子ども会行事などを受け入れ、自然のすばらしさを伝えています。

子どもたちに一番に伝えたいことは、「自然の中は楽しいこと、おもしろいものであふれている」ということ。

スズメバチやウルシの仲間など注意が必要な生きものもいますが、「約束事さえ守れば楽しく過ごせる！」ということを、樹木、野鳥、昆虫など多様な生きものと触れあえる自然体験や、園内で採集した材料でのクラフト体験ほか多様な体験プログラムを通して大切に伝えています。



子どもたちの「また来たい！」「今度は家族と来るね！」の笑顔を励みに、これからも“生物多様性に富んだ公園づくり”を進めていきます。



自然体験を通して伝えたいメッセージ

里山体験西脇「木縫の里」 絹川 喜和美
 (ひょうごグリーンサポーター・スクールインタープリター)

楽しい自然体験をすることだけが目的ではなく、私が体験活動で本当に伝えたい普遍的なメッセージは、「人も自然も大切に作る人になってね！」です。インタープリテーションの手法を使って、地域や自然を見直し、再発見し、大切にしていこうにつながるメッセージを発信する場所が、また一つ増えた瞬間です。

環境教育とは、「環境に配慮した暮らしが実践できる人を育てる」(EE) また、「環境とそれに関する問題に気づき、そのことに関心を持ち、そして現在の問題の解決や新しい問題の予防のために、個人や集団で働くための知識、技能、態度、動機、そして参加(行動)する仲間を世界中に増やすこと」(ベオグラード憲章)とあります。つまり、支援者が体験者の心の中にどんな変化を起こしたいかを考え、価値観の変化によってライフスタイルが変えられる人を育てることを目的とします。

体験学習とは、教えられるから学ぶへ、暗記するから考えるへ、知識の蓄積から意識の変化へ、また、環境が今どうなっているかという学習だけではなく、環境保全のためにこれからどんな行動をする人になれるかを学ぶことです。

楽しい体験をするだけではなく、体験を通じて何を学ぶか、何を伝えるかが大切です。

特に、幼児期から10歳くらいまでに、自然の中で多くの体験をすることで、創造力や生きる力、まわりの者(物)への思いやりの心を育くむことが、その子どもの、その後の人生を豊かにします。

本当に効果的な環境体験学習を進めるためには、指導者自身が自然体験で本当に伝えたいしっかりした「テーマ」(ねらい)を持ち、それを伝えるための系統だったプログラムの実施が必要です。さらに、指導者自身が「おもしろい!」「ふしぎだな!」「他にもあるかな!」「おかしいな!」と受け止めることのできる心を持ち、また、参加者と一緒に成長していこうとする心構えが大切です。



私は、これまでインタープリテーションという手法を使って、楽しいプログラムを実施し、「分かち合い」に重点を置き、参加者同士の「想い」を共有することで多様な価値観を見出し、最後は必ず私のテーマ(ねらい)である「人も自然も大切に作る人になってね!」を伝える活動をすすめてきました。

「驚きや感動を通じて、生命の不思議さやつながりを体感することができる自分」をまず大好きになり、家族を好きになり、仲間を好きになり、地域を愛し、生まれた国を愛し、世界を愛する人になる。目標は大きく、活動は身近なところから世界に広がってゆく、そうすると世界平和が可能になるのではないのでしょうか。そんな、活動を今後も続けて行きたいと思います。そして、それを楽しく、わかりやすく伝えることがインタープリテーションです。



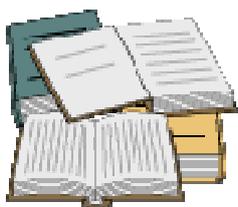
廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の改正について

廃棄物の適正な処理を確保するため、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等が改正され、平成23年4月1日に施行されます。主な改正内容は次のとおりです。

- (1) 建設系産業廃棄物を事業所の外で保管する際の事前届出制度を創設
- (2) 建設工事に伴い生ずる廃棄物について、元請業者に処理責任を一元化
- (3) 不適正に処理された廃棄物を発見したときの土地所有者等の通報努力義務を規定
- (4) 従業員等が不法投棄等を行った場合に、当該従業員等の事業主である法人に課される量刑を3億円以下の罰金に引き上げ(現行：1億円)
- (5) 優良な産業廃棄物処理業者を育成するため、事業の実施に関する能力及び実績が一定の要件を満たす場合は、許可の更新期間の特例(7年)を創設(現行：一律5年)
- (6) 産業廃棄物収集運搬業許可の合理化のため、一の政令市を越えて収集運搬を行う場合は、都道府県の許可に一本化(現行：積卸しを行う全ての都道府県又は政令市の許可)

また、事業者及び地方公共団体による公害防止対策の効果的な実施を図るため、「大気汚染防止法」及び「水質汚濁防止法」が改正され、平成23年4月1日(予定)に施行されます。主な改正内容は次のとおりです。

- (1) ばい煙や排出水等の測定結果の改ざん等に対する罰則の創設
- (2) 事故時の措置の対象に、指定物質()や水質汚濁防止法に規定する生活環境項目(pH等)について排水基準に適合しないおそれがある水の排出を追加(現行：有害物質や油)
- () 公共用水域に多量に排出されることにより人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある物質として政令で定めるもの



廃棄物エコ手形制度について

廃棄物エコ手形制度は、不法投棄又は不適正処理され、地域の生活環境に支障を来している廃棄物を関係業界と地域住民が協働して撤去(処分)することを目的とした制度です。

エコ手形による廃棄物撤去については、原則として、管理者不在の民有地等に不法投棄され、撤去義務がある投棄行為者が不明等である場合に、撤去要請が地元自治会からあり、撤去に当たり当該自治会の協力が得られる場合に行います。廃棄物処理事業者から県民局に登録された「エコ手形」を振り出し、ボランティアで機材・資材・人員を提供してもらい撤去します。

制度の詳細については下記HPをご覧ください。

HP (<http://kitaharima-ikiiki.com/kanky/haikibutuekotegata.html>)

廃棄物エコ手形の登録状況

所在地	企業名	所在地	企業名	所在地	企業名
西脇市	門上建設 株式会社	加西市	加西砕石 株式会社	小野市	片岡建材建設 株式会社
	株式会社 岡井組		加西緑化		福田道路株式会社・前田道路株式会社 共同企業体 トウレキ合材工場
	株式会社 シビルクリエイト		柏原建設 株式会社	加東市	大林道路 株式会社 東条アスファルト混合所
	新北播企業 株式会社		株式会社 小田工務店		株式会社 大功組
	一組兵庫 株式会社		株式会社 カンキョウ		株式会社 フジイ
	和宏 有限会社		株式会社 新生興業 加西工場		ジェイオー建設 株式会社
三木市	大栄環境 株式会社	株式会社 ダイセン	多可町	株式会社 古来造園土木	
	株式会社 神和商事	後藤建設工業 株式会社		株式会社 清水環境産業	
	永倉商事 株式会社	日本機動建設 株式会社		株式会社 林本興業	
	有限会社 ユニテック	双葉産業 株式会社		共栄建設 株式会社	